

2020年3月期 (令和2年3月期)

決算経営報告

PART - 1. 決算概要

- ・2020年3月期 決算実績

PART - 2. 経営報告

- ・新型コロナウイルスへの対応と影響
- ・新中期経営計画
1年目の「成果」と今後の「展望」

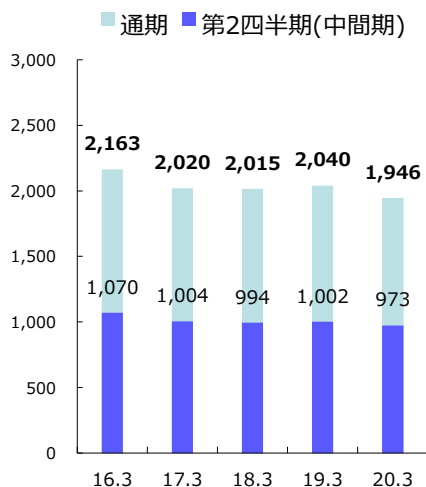
2020年05月29日
三菱製紙株式会社

2020年3月期 決算実績

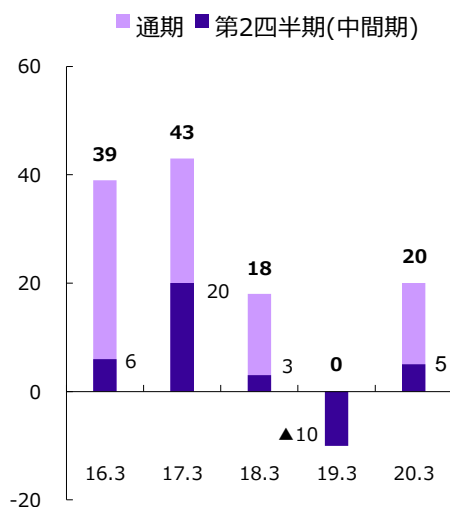
(単位：億円、%)

	2019年3月期		2020年3月期		前期比	
	金額	売上高利益率	金額	売上高利益率	金額	増減率
売上高	2,040	—	1,946	—	▲94	▲4.6
営業利益	▲0	▲0.0	20	1.0	20	—
経常利益	▲9	▲0.4	27	1.4	36	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	4	0.2	8	0.4	4	128.3

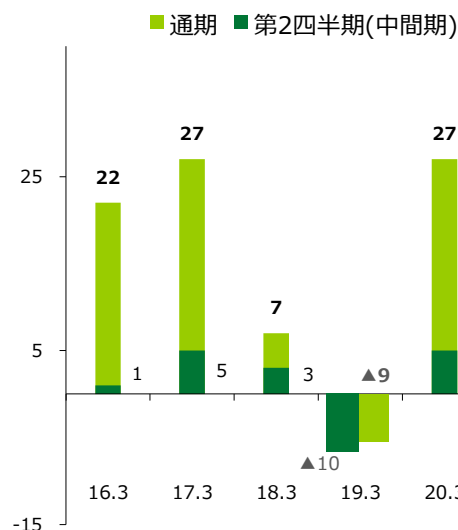
売上高



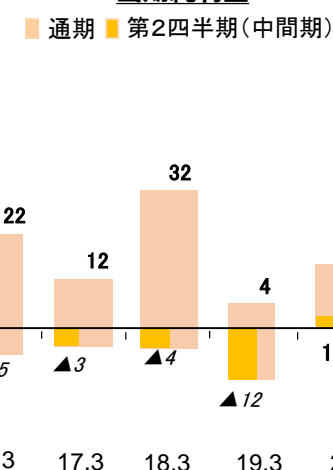
営業利益



経常利益



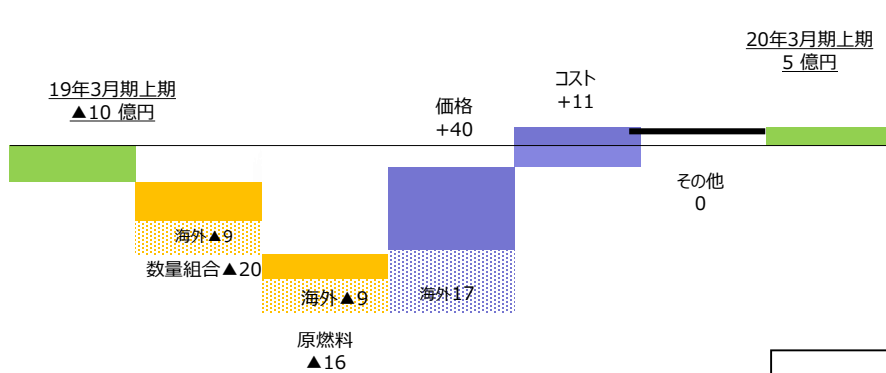
親会社株主に帰属する
当期純利益



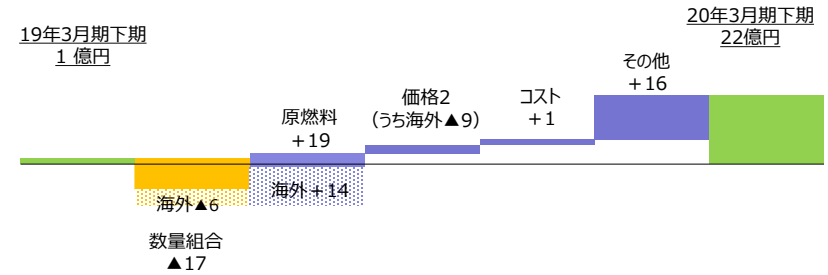
(単位：億円、%)

		2019年3月期	2020年3月期	増減額	増減率
売上高	紙パルプ	1,568	1,464	▲104	▲6.6
	イメージング	353	336	▲17	▲4.8
	機能材	175	162	▲13	▲7.5
	倉庫・運輸、その他	148	153	5	3.1
	消去	▲204	▲169	35	-
	合計	2,040	1,946	▲94	▲4.6
営業利益	紙パルプ	▲14	11	25	-
	イメージング	5	▲3	▲8	-
	機能材	7	10	3	45.8
	倉庫・運輸、その他	3	3	▲0	▲4.5
	消去	▲1	▲1	0	-
	合計	▲0	20	20	-

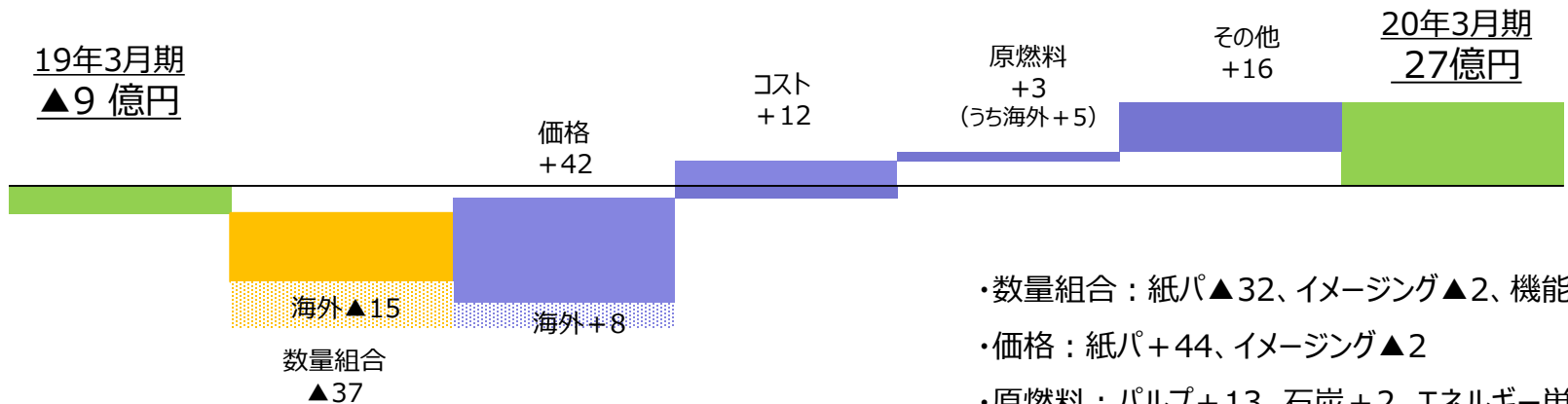
上期比較



下期比較



通期比較



- ・数量組合：紙パ▲32、イメージング▲2、機能材▲3
- ・価格：紙パ+44、イメージング▲2
- ・原燃料：パルプ+13、石炭+2、エネルギー単価+2
チップ▲9、薬品▲5

(単位：億円、%)

	2019年3月末		2020年3月末		前期末比
	金額	構成比	金額	構成比	金額
資産合計	2,328	100.0	2,122	100.0	▲206
流動資産	997	42.8	926	43.6	▲71
固定資産	1,331	57.2	1,196	56.4	▲135
有形固定資産	1,012	43.5	937	44.2	▲75
無形固定資産	17	0.7	4	0.2	▲13
投資その他の資産	302	13.0	255	12.0	▲47
負債合計	1,658	71.2	1,517	71.5	▲141
流動負債	1,209	51.9	1,055	49.7	▲154
固定負債	449	19.3	462	21.8	13
純資産	670	28.8	605	28.5	▲65
有利子負債	1,046	-	1,019	-	▲27

(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減
	金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	191	100	▲91
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲90	▲66	24
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲82	▲56	26
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲0	▲1	▲1
現金及び現金同等物の増減額	19	▲23	▲42
現金及び現金同等物の期首残高	97	116	19
現金及び現金同等物の期末残高	116	93	▲23

	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末
有利子負債	1,193億円	1,046億円	1,019億円
減価償却費	105億円	101億円	98億円
設備投資額 (計上ベース)	74億円	125億円	55億円
従業員数	3,723人	3,668人	3,676人

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルスの影響により、合理的な見通しを立てることが困難なため未定としております。業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

経営報告

- 新型コロナウイルスへの対応と影響
- 新中期経営計画
1年目の「成果」と今後の「展望」

【工場操業】

※各現場の状況に応じ、時差出勤・接触機会減等の感染防止策実施

- ・国内各生産拠点：需要動向に応じた生産活動を維持
- ・欧州ドイツ工場、北米メキシコ工場：操業を維持
- ・中国珠海工場：春節明け 2月14日より稼働

【管理部門・販売部門】

- ・時差出勤
- ・在宅勤務の推進（4月7日～5月25日出勤を7割弱抑制（本社））
- ・リモートでの営業活動

【その他】

- ・運輸部門（浪速通運(株)）・・・事業継続
- ・スポーツ施設運営（菱紙(株)）・・・一部休業

<マイナス要素>

- ・印刷用紙・情報用紙の需要減（イベント中止、オフィス向け需要減）
- ・世界的な外出制限による画像出力向けのフォト、IJの需要減
- ・経済活動全般の委縮に伴う全般的な需要低迷
- ・営業活動量の低下に伴う新規拡販の停滞

<プラス要素>

- ・衛生関連商品（フィルター、トイレトロール・ティッシュペーパー等の家庭紙）
- ・“巣ごもり消費”需要による受注増（紙トレイ、POS向け感熱紙）
- ・感染予防に向けての商品の開発・販売

アルコール除菌液



飛沫防止用パーティション



抗ウイルス機能性フィルター



新中期経営計画

期 間

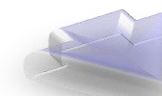
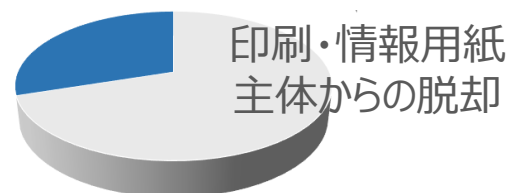
2019年～2021年（3年間）

基本方針

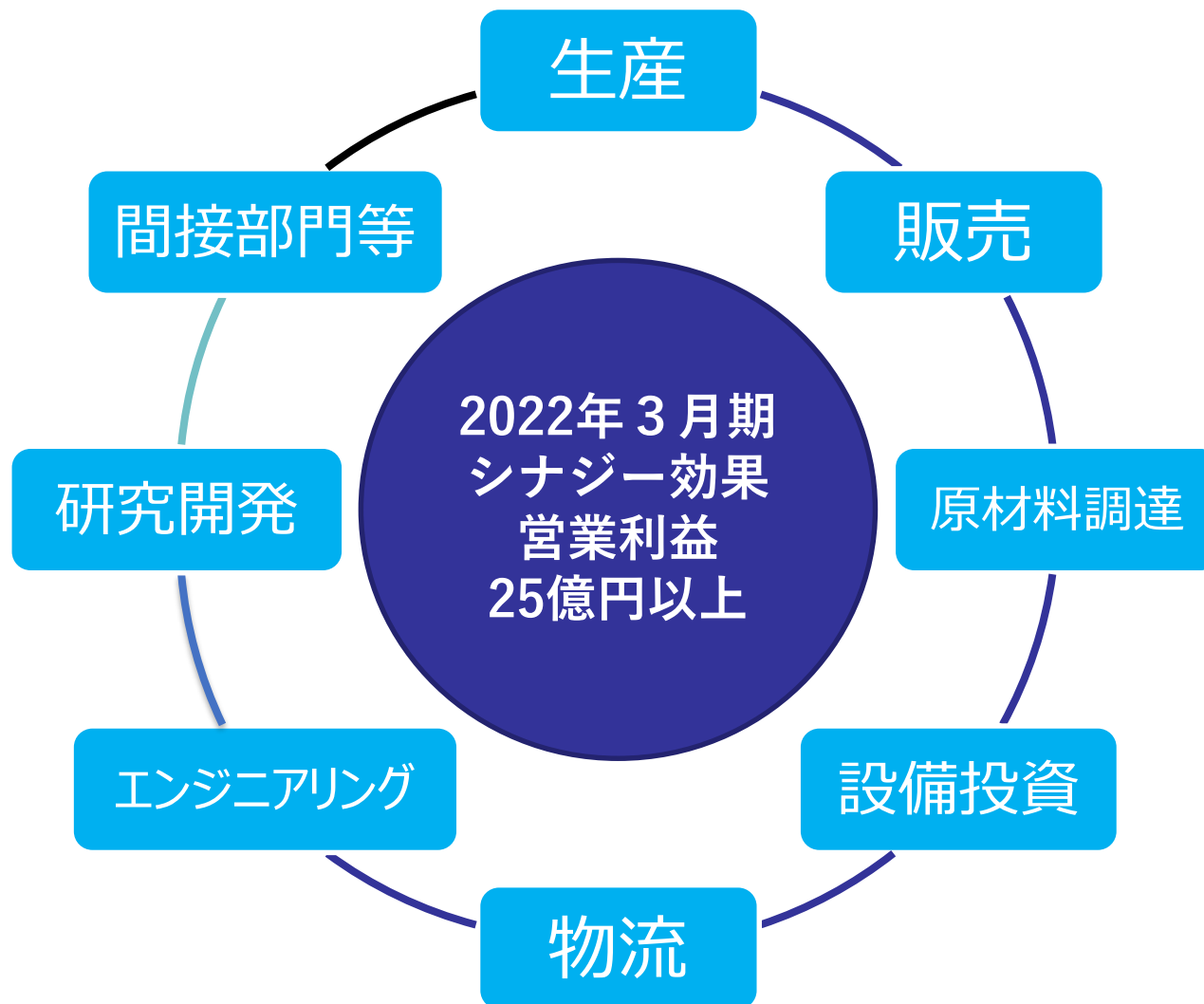
新しいステージに立った
事業基盤の強化と多様化

重点戦略

- ① 王子グループとのアライアンスによる強固な経営基盤の確立
- ② 既存事業の再構築と充実
- ③ 新たな収益の柱の育成による事業基盤の多様化



全ての事業分野での強固な協業関係を実現



エム・ピー・エム・王子エコエネルギー(株)

三菱製紙：45% 王子グリーンリソース：55%出資

バイオマス発電事業

2019年9月 営業運転開始

2020年3月期売電量 : 約3.6億kWh

2021年3月期売電計画 : 約5.3億kWh

- ・新型コロナウイルス禍に対して社会インフラを支える
- ・安定稼働により収益に寄与
(2020年3月期 持分法による投資利益12億円)



エム・ピー・エム・王子ホームプロダクツ(株)

三菱製紙：70% 王子ネピア：30%出資

家庭紙事業

2019年4月 営業運転開始

王子ネピアの協力のもと安定生産・安定供給

2020年3月生産量 : 1,750トン/月

- ・東北地区での確固たるブランドを確立
- ・東京都内を含めた関東地区での販売網構築

共同調達による提携効果について

2020年3月期のシナジー効果額：9億円

- ・OCMFT（王子・中パとの輸入チップ共同調達会社）への参画
- ・相互の市況情報の共有化、調達手段の多様化、近距離ソース化、有利銘柄転換


2022年3月期のシナジー効果額：15億円

- ・安価なベトナムチップ倍増
- ・八戸バイオマス発電事業 国産燃料チップの供給増
- ・諸薬品の使用量削減でコストダウン



販売力強化への取り組み

《実績》

(1) 2019年11月 専属代理店の商号変更  **三菱王子紙販売株式会社**

「三菱製紙販売株式会社」→「三菱王子紙販売株式会社」へ

王子製紙、王子マテリアと代理店契約を締結

➡ 「三菱」ブランドと「王子」ブランドの仕入基盤確立

(2) 王子製紙との地域間相互OEM開始

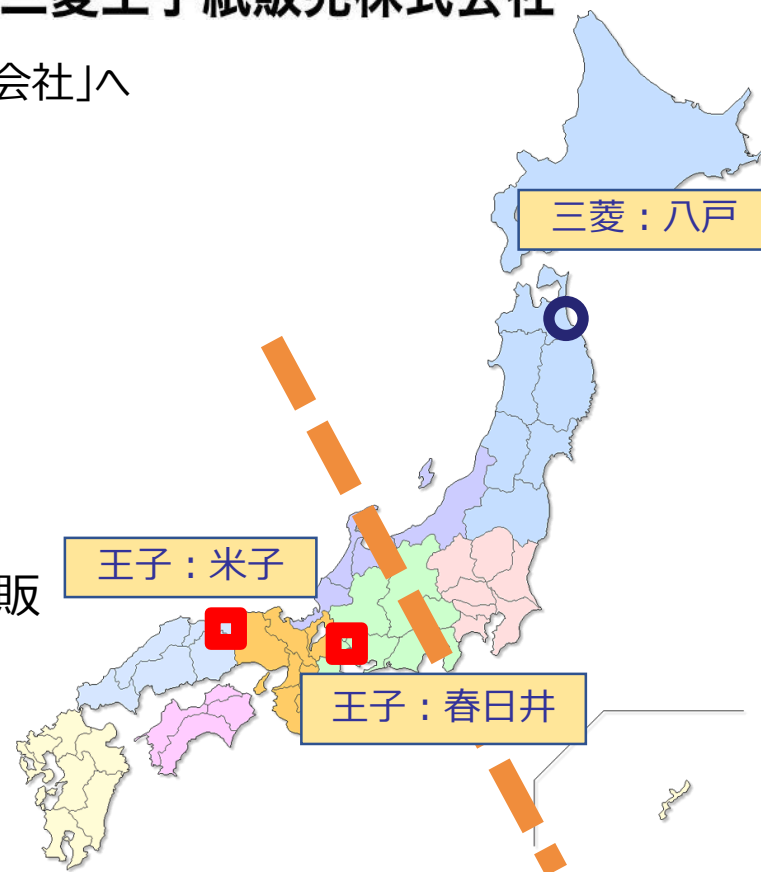
交錯輸送による運送費の削減に着手

(2020年3月期 約5,000 t)

《今後の展望》

(1) 三菱品の販売シェアが低い西日本への重点拡販
王子グループ各社との代理店契約拡大

(2) 生産銘柄統合・整理による更なる協業を検討



王子品による西日本での拡販

ノーカーボン紙事業の生産・販売集約

2019年11月 生産・販売移管を決定

- 背景：洋紙市場縮小の中、ノーカーボン紙市場も年々縮小
- 高砂工場・八戸工場への生産集約
- 販売は、三菱王子紙販売及び王子イメージングメディアの各代理店と販売網の調整のうえ、既存取引先様へ供給

2020年7月 正式移管

- 生産・販売集約によるコスト競争力と販売力を強化
- 移管分と合わせ市場シェア35%以上確保
- 生産性向上による収益改善
- 情報用紙分野での更なる協業検討継続



事業部見直しによる組織再編

《狙い》

- 需要減退が続く印刷・情報用紙主体の事業ポートフォリオからの脱却
- 情報出力媒体から機能性材料へのシフトの推進



「研究開発本部」新設 2020年1月

- 当社の研究部門の集約を図り、
将来を担う商品開発に当たる体制へ

「機能商品事業部」新設 2020年6月

- イメージング事業部と機能材事業部とを統合
- 機能性材料の拡大と新規開発を推進
- グローバル市場での事業拡大
(ドイツ事業も当事業部が管轄)

※報告セグメントは、
従来通りの製品・
サービス別と変更
ありません。

イメージング事業の中計目標（営業利益10億円）に向けての取組み

既存事業の効率最大化

- 新興国の海外顧客との直販体制構築
- カラー印画紙の取引見直しによる採算改善
- インセンティブ契約による顧客囲い込みと取引拡大



- 印刷感材事業の子会社移管による集約

アライアンスの活用

- 富士フイルムとのアライアンス（写真用原紙ほか）
- コロナによるロスの最小化（一時帰休等の対応）と需給バランスの適正化



- アライアンスの医療分野等への拡大

既存リソースを活用した新規展開

- 高砂でのデジタル捺染紙の開発と販売
- 京都新コーターへの電子工業材料生産移管



- デジタル捺染紙の八戸生産による競争力強化
- 先端絶縁材料の処理システム拡販

- 北上での特殊用途工程紙製造

特徴ある技術基盤の融合

高砂工場
つくばR&Dセンター



京都工場
京都R&Dセンター

グローバルな事業
成長を加速

イメージング技術

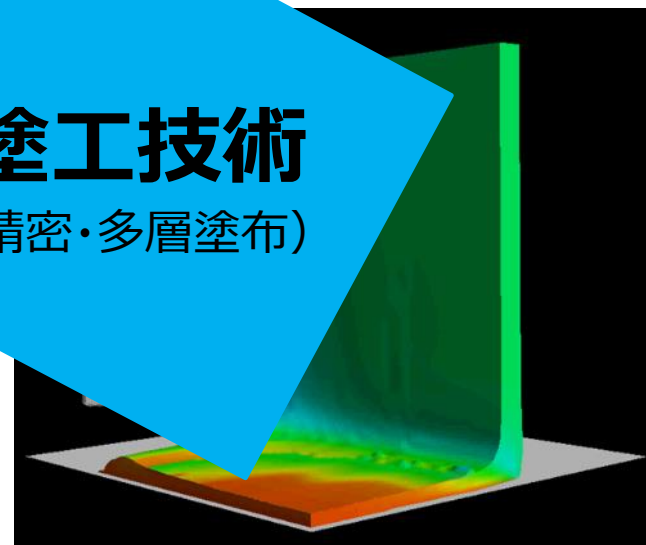
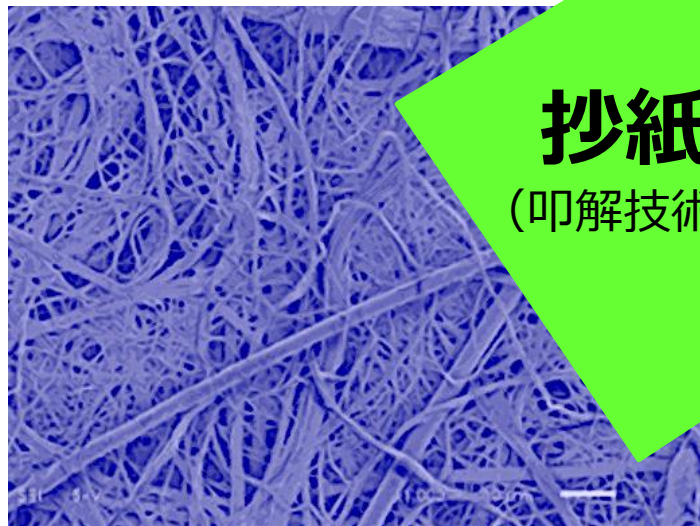
(感光材料・インクジェット用紙)

抄紙技術

(叩解技術・不織布)

塗工技術

(精密・多層塗布)



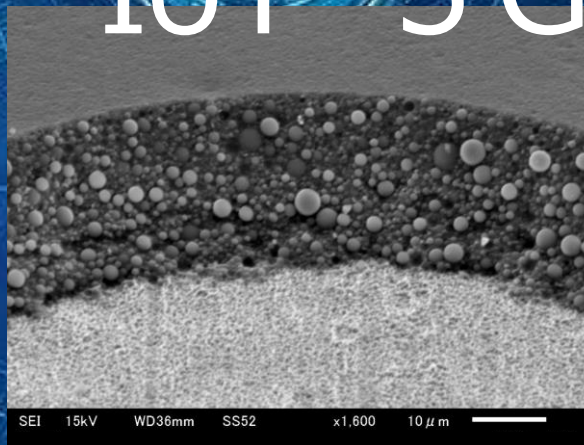
電子工業材料の展開

(1) ポジティブレジストフィルム
ハイエンド半導体パッケージ
基板用途

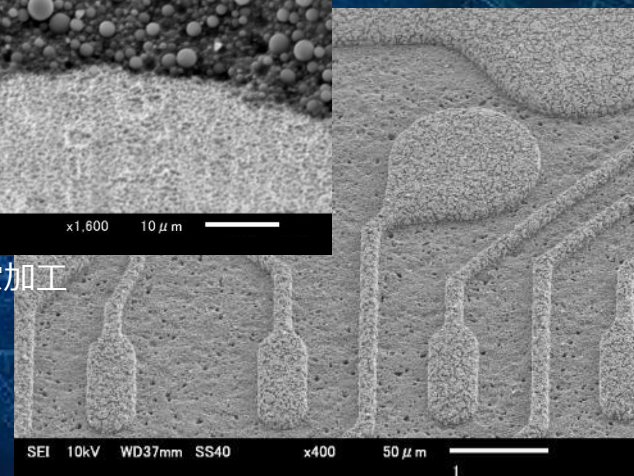


(2) 絶縁樹脂のウェットエッチング
加工技術

IoT・5G用途



熱硬化性樹脂 穴加工



熱硬化性樹脂の均一減膜エッチング

グローバルな展示会で開発製品の高い技術力をアピール

- ・TPCA展 2019/10 in 台湾
- ・ネブコンジャパン 2020/1 in 東京

不織布の成長分野での拡大

(1) バッテリーセパレータ

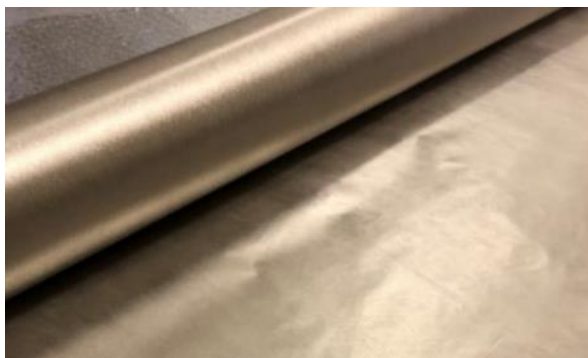
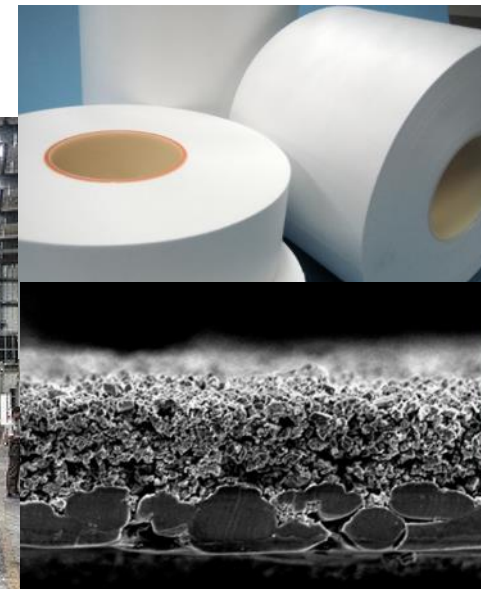
■ 産業車両用のLIB

に採用決定 (NBX)

- セパ合計売上 2019年実績：6億円
(対前年比193%)



このイメージは弊社の商品が採用された実際の案件とは関係はありません



このイメージは弊社の商品が採用された実際の案件とは関係はありません

(2) 超薄膜電磁波シールド材

スマホ用部材

- 2019年韓国向けにスマホ約1億台
相当を出荷

不織布新商品

特殊繊維を用いた高機能不織布

FUNCTIONAL NON-WOVEN

ISOLATION

FILTRATION

INSULATION

HEAT RESISTANCE

GLASS PAPER



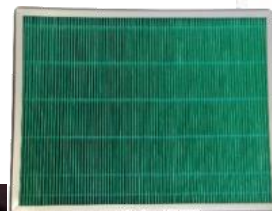
高耐薬品性



超高耐熱性

快適で安心な室内環境へのニーズを見据えた戦略商品

(1) 高性能フィルター濾材
抗ウイルス・抗アレルギー



空調用途

(2) 全熱交換素子 2019年販売実績3億円 (2021年は倍増の計画)

(3) 空間・物品除菌液
(エタノール70%以上含有製剤)



イメージング製品の原材料である
「高濃度エタノール」の活用

環境配慮・脱プラスチック

(1) FSC認証の紙ストロー

大手飲食チェーンにて採用決定
年間数億本規模の目標

(2) 紙袋



FSC®で認可された
エコロジーな紙ストロー。

環境配慮・脱プラスチック

バリコート®、バリシェルパ™ 国内での生産販売開始

- 国内ユーザーの品質要求に対応したバリア紙を国内工場で品質確立
- 2ブランドを立ち上げ2020年5月より販売開始

barr)j(cote®

酸素・水蒸気・食品油脂、印刷インキに対する優れたバリア性、ヒートシール適性、リサイクル性を有する包装用コート紙。プラスチック包装の削減に貢献。

barrisherpa™

バリア紙と各種フィルムの積層品。プラスチック包装の減量に貢献。



食品、非食品の1次包装、2次包装用として5年後に20億円の売上を目指す。

本資料における予想数値や業績見通しに関する記述は、現時点における将来の経済環境予測や入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の実際の決算・業績数値とは異なる可能性があります。